

平成 23 年第 20 回

札幌市教育委員会会議録

※ 非公開に係る議案を除く

平成23年第20回教育委員会会議

1 日 時 平成23年12月19日（月） 13時30分～14時55分

2 場 所 S T V北2条ビル4階 教育委員会会議室

3 出席者

委員長	山 中 善 夫
委員	設 楽 雅 代
委員	西 村 真 理
委員	池 田 光 司
委員	北 原 敬 文
教育次長	町 田 隆 敏
生涯学習部長	長 岡 豊 彦
調整担当課長	前 田 明 寿
学校教育部長	金 山 正 彦
教職員課長	池 戸 和 俊
服務担当係長	八木野 久
指導担当部長	池 上 修 次
指導担当課長	森 岡 毅
中央図書館長	長谷川 利 雄
管理課長	鈴 木 眞
調整担当課長	小 松 宏 人
業務課長	千 葉 眞
調査担当課長	千 葉 孝 一
企画担当係長	宮 野 純 一
総務係長	太 田 秀 浩
総務課長	長谷川 雅 英
庶務係長	宮 地 宏 明
書 記	川 畑 千 沙

4 傍聴者 6名

5 議 題

議案第1号 札幌市教育推進の目標及び札幌市教育推進の指針について

議案第2号 平成24年度全国学力・学習状況調査への札幌市の対応について

- 議案第 3 号 第 2 次札幌市図書館ビジョンの策定について
- 議案第 4 号 札幌市図書館協議会委員の委嘱について
- 議案第 5 号 平成24年度札幌市奨学生（予約採用者）の選定について
- 議案第 6 号 校長及び教頭の人事について
- 議案第 7 号 教職員に対する懲戒処分について
- 議案第 8 号 教職員に対する懲戒処分について

◎ 開 会

○山中委員長 それでは、これから、平成23年第20回教育委員会会議を開会いたします。

本日は、臼井委員から、所用により会議を欠席する旨の連絡がございました。会議録の署名は、設楽委員と池田委員にお願いいたします。

本日の議案につきましては、議案第4号は附属機関の委員の任免に関する事項、議案第5号は奨学生の選定に関する事、議案第6号から議案第8号につきましては、職員の人事にかかわる事項にそれぞれかかわるものでございますので、教育委員会会議規則第14条第1号、第2号及び第3号によって公開しないということにしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○山中委員長 それでは、議案第4号から議案第8号につきましては、公開しないということといたします。

◎ 議 事

◎議案第 1 号 札幌市教育推進の目標及び札幌市教育推進の指針について

○山中委員長 では、まず議案第 1 号について事務局からご説明をお願いいたします。

○生涯学習部長 議案第 1 号 札幌市教育推進の目標及び札幌市教育推進の指針についてご説明を申し上げます。

札幌市教育推進の目標は、長期的な視点に立ち教育全般にわたる理念を示し、札幌市教育推進の指針は、この目標に対する教育委員会の方向性を示すものとして、それぞれ掲げているものでございます。また、この目標及び指針、それに対応する各個別計画を体系的に結びつけ、その総体をもって札幌市の教育振興基本計画としております。

この目標及び指針は、長期的な理念や方向性を示すものであることから、大きな社会情勢の変化等がある場合に内容を変更することとしておりますが、内容の変更を行わない場合であっても、毎年度、教育委員会会議において、その内容についてご確認いただき、ご意見などを賜ることとしております。

現在の目標及び指針については、平成17年度に大幅に見直したものをもとに、平成23年度に高等専門学校の閉校等に係る最小限の修正を行ったものでございます。

平成24年度につきましては、社会情勢の変化を勘案した上で、見直しを要しないと判断できることから、現在の内容で継続して掲げることといたしたく、本案を提出するものでございます。

続きまして、それぞれの内容についてご説明申し上げます。

まず、目標ですが、全体を包括する目標として、「未来を切り拓く人間性豊かで創造性あふれる自立した札幌人」を掲げております。また、包括目標を達成するための3本の柱として、「自らの夢や希望に向かってねばり強く挑戦し、努力するたくましい心身をはぐくむ」、「自他ともに尊重しともに支え合う思いやりのある心をはぐくむ」、「ふるさと札幌に根ざし国際社会で活躍する豊かな創造力をはぐくむ」を掲げております。

次に、指針ですが、目標を実現するために、幼児教育、義務教育、高等学校教育、特別支援教育、生涯学習の各教育段階の推進すべき方向性を示したものでございます。

以上、ただいまご説明申し上げました現在の目標及び指針を、平成24年度においても継続して掲げることといたしたいと考えておりますので、ご審議のほどをよろしくお願いいたします。

議案第 1 号の説明は以上でございます。

○山中委員長 ありがとうございます。

ただいまの説明につきまして、委員の皆さんから、ご質問あるいはご意見がありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。

○池田委員 ここ1年間、ずっといろいろな資料を読んでいまして、推進の目標、それから指針、その他、ねらいですとか、目標設定みたいな理念があったような気がするのです。今、この内容は十分だと思うのですが、目標、指針とか、方針とか、その次には学校経営などいっぱい出てくるのですが、途中で混乱したり、整合性が自分の中に整理がなかったりすることがあるので、行く行くはもう少し簡素化できるような方向をどこかの時点で考えていただければありがたいなど、こんなふうに感じます。

きっと、現場でもいろいろな書類が出てきて混乱することになるかもしれませんので、何か少し整理をするという機会を1回設けて、来年度に向けてご検討いただければありがたいという気がします。

○山中委員長 確かに、ご指摘のとおり、非常にたくさんあって、一番上にあるのがこれだ、それを具体化するためにこれだ、そのためにこれだという形で組み立てられてはいるのですが、ぱっと見たときに、何となく全体的に札幌市の教育としてこういうことをやっていくのだぞとわかりやすく頭に入るといった感じではないのかもしれませんが。その辺は、前から私も何となく、もう少し整理というか、余り細かくし過ぎない方がいいのかなという気もしているところです。

ほかに、その辺についてご意見はどうでしょうか。

これは、今どうするという事ではないのですが、今後に向けての要望として、とりあえずお聞きしておくということで進めていきますが、あわせて、ほかにご意見はございますか。

○西村委員 平成22年に常用漢字表の改定があったということで、「はぐくむ」という言葉とか「かかわり」という言葉が、たしか漢字に置きかわったと思っていたのですが、ここの部分はどうか。

○生涯学習部長 そのとおりでございます。

この後、報告の中でも、札幌市の教育の重点でお話が出てまいります。基本的には、「育む」という漢字につきましても、そのように直すべきかと考えております。ただ、現在、札幌市教育振興基本計画に個別計画が五つございまして、その検討に着手してございます。この目標、指針も、今お話がございましたとおり、このままずっとということではなくて、必要に応じて、今いただいたご意見も参考にさせていただきながら、検討していかなければいけないと思っております。

このポスターは、ご覧のとおり、各所に掲げておりまして、字も大切なのですけれども、「はぐくむ」を漢字に直しますと、また相当の予算も必要になってまいります。これは、学校でも張っておりますから子どもの目にもつきますので、そういう意味からも、わかりやすい平仮名でこの1年間ないしは当面は使わせていただきまして、必要な機会に変えさせていただきたいと考えております。

○山中委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○山中委員長 特になければ、今出ましたような意見を踏まえて、以降について検討を進めたいと思います。

議案第1号につきましては、この教育推進の目標あるいは指針については、来年度も今年度と同じ内容でいくということによろしゅうございますか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○山中委員長 では、そのように決定させていただきます。

◎議案第 2 号 平成24年度全国学力・学習状況調査への札幌市の対応について

○山中委員長 続きまして、議案第 2 号につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

○指導担当部長 指導担当部長の池上です。

私から、議案第 2 号平成24年度の全国学力・学習状況調査への対応について説明いたします。

全国学力・学習状況調査の実施につきましては、教育委員会が教育長に委任する事務であると考えておりますが、本調査は、実施以来、市民の関心が極めて高く、市議会においても取り上げられておりますことなどから、平成23年度調査においてもご審議いただいた経緯がありますが、平成24年度の対応方針について、改めて教育委員会に付議することといたしました。

本調査については、平成19年度から実施され、国語、算数・数学を対象教科とし、小学校 6 年生及び中学校 3 年生のすべての児童生徒を対象として、平成21年度まで、毎年、悉皆調査で実施してまいりました。平成22年度調査から、実施方法が抽出調査へ変更となり、あわせて学校の設置者が希望すれば調査を利用することができることとされました。札幌市といたしましては、抽出調査には参加し、希望利用には参加しませんでした。

平成23年度調査については、先ほど申し上げましたとおり教育委員会会議において、平成22年度調査と同様、抽出調査に参加し希望利用には参加しないことと決定いただきましたが、震災の影響により、結果として、国において調査の実施が見送られました。

それでは、お手元の資料の平成24年度全国学力・学習状況調査への対応についてをご覧ください。

平成24年度調査への対応についてであります。これまでと同様、抽出調査には参加し希望利用には参加しない対応を考えております。

抽出調査に参加する理由といたしましては、従来から教育委員会として札幌市全体の児童生徒の学習状況の傾向を把握し、指導方法等の工夫改善を図るためには抽出調査で十分であると考え、平成16年度から札幌市独自の学習実現状況調査を抽出で実施してきたところであります。国の調査方式の考え方は本市とほぼ同様であり、札幌市全体の学習状況の傾向を把握し市の学力向上等に生かすという観点から、国の抽出調査には参加することとしたいと考えております。

次に、希望利用に参加しない理由といたしましては、本年 1 月にもご議論いただいたところですが、市全体の児童生徒の学習状況の傾向を把握するには抽出調査で十分であり、各学校及び個々の児童生徒の学習状況等の把握

や学習指導要領に示されている学習内容の定着については、各学校において日常のテストなどの方法を用いて、その結果を踏まえた指導を即時的に行うなど一人一人の子どもにフィードバックして学力の向上を図っていることから、本年度と同様に希望利用には参加しないこととしたいと考えております。

最後に、お手元の資料の参考に、平成24年度調査の実施方法等を示しております。

実施日は平成24年4月17日火曜日、実施方法等については、これまでと変更になった点は、対象教科に新たに理科を加え3教科で実施されることです。その出題内容については、これまで同様、主として知識に関する問題と活用に関する問題となっており、あわせて生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査も実施することとなっております。

私からの説明は以上でございます。ご審議のほどをよろしくお願いいたします。

○山中委員長 ありがとうございます。

それでは、ご質問あるいはご意見はございますか、お願いします。

○西村委員 私も、来年度に関しては、抽出参加に参加し希望利用には参加しないという方式でいいと思うのですが、これは将来的にずっとこのままでいくのか、それとも何年かごとに悉皆というか、国の方針がそうであるかなにかに関わらず札幌市全部で実施してみて、個々の学校が札幌市の抽出調査と自分の学校との差を知るような機会も何年かに1回ぐらいあってもいいのかなという気はするのです。

それは何年がいいのかとか、国の動向にもよりますけれども、そういうような議論も並行して、毎年毎年、直前になってやる、やらないを決めるのではなくて、札幌市の長期的なビジョンとしてどうなのかということ話し合う機会があってもいいかなと思うのです。

○指導担当部長 今、西村委員からご指摘があった部分についてですが、お話にありましたように、国において、現在、いわゆる全国学力テストの実施に当たりまして、何年かに1回はすべての児童生徒を対象にして実施するというところについての検討も行われているように報告を受けていますので、それらの動向も見きわめながら、札幌市として今後どうしていくかというあたりは、その情報に注視しながら、また一緒に考えていただければと思っております。

○山中委員長 西村委員、どうですか。

○西村委員 やはり、抽出調査だと、札幌市全体はわかるのですが、では、自分の学校は札幌市全体のどこにあるのかということが見えてこないことがあると思うのです。やはり、各学校が一生懸命努力したことがどの程度反映されてきたかということがある程度わかる、それがすべてではないのですけれど

ども、努力目標ということで、少しでも見える形でできたらいいのかなというふうに思ったので、何年かに一遍かは全校が受けるような調査ができないかなと思っておりました。

○山中委員長 指導担当部長が言われた国の方で検討しているものは、推測しがたいのかもしれませんが、何年に一遍、しっかりやるという方向性はある程度出ているのですか。

○指導担当部長 国は、数年に一度ということで、調査研究の検討会議から、時々、情報として出てきている話で、まだ決定したわけではございませんが、方向性としてはそういうことを検討しているところです。

○山中委員長 どうですか。

○北原委員 前の検討のときに臼井委員からもご指摘を受けましたけれども、全市の状況についての把握はこの方式でできるけれども、実際に各学校の傾向について、今、西村委員からご指摘のあった他校との比較だけではなくて、むしろ、そのことよりは、どういう領域についてどういう傾向を持っているのかについて、学校としてどういうふうに対応を図っていくのかについて、どういう形で把握していくのかについては課題ですねというご指摘をいただいたところです。そのことについて念頭に置きながら、今後、検討していく必要があるだろうと思いますし、そのための議論をしていく必要があると思っていますところ。

○山中委員長 何回か実施した中で、札幌市としてこういうところを考えて指導していかなければならないなというところがいろいろ出てきているのだと思いますけれども、そのあたりの対応については、きちんと対応できているように考えられますか。

○指導担当部長 第1回目ときには、検証改善プランというしっかりしたものをまず作りまして、その後、調査があるたびに、札幌市としても全体の傾向を把握した上で、何が課題か、それに対してどういう指導が必要なのかを報告書にまとめる形で各学校に啓発を図っているところです。

○山中委員長 そして、対応を考えながら、他方、テストのあり方としてどうなのか、札幌市がやっているものとしても独自の調査でも十分なのか、あるいは、ここをもう少しやっていった方がいいのではないかと、あるいは、国の方に対してテストのやり方としてこういうことを要望していったらいいのではないかと、この辺のところまではまだ行ってないのですか。

○指導担当部長 国からは、毎年、実施後に改善方策等についての意見を求められておりますので、その中では、今行っているような抽出調査という形で行っていくことを札幌市としては希望するという回答を基本にしております。

○山中委員長 ほかにいかがでしょうか。

今回は理科が加わる関係では、札幌市としての対応で何か考えていかなければならないことはありますか。

○指導担当部長 理科に関わっては、前回ご報告の案件でこの場でお知らせしましたとおり、これまで札幌市独自の学習実現状況調査では3年に1度行っていまして、理科も対象教科に加えておりましたけれども、同じような趣旨で行われる抽出調査なものですから、今回は、平成24年2月に行うことになっておりますけれども、全国の調査で理科が加わったということで、札幌市の調査は理科を対象から外して実施するというので、ご報告申し上げたとおり、今、準備しているところでございます。

○山中委員長 そうすると、平成24年2月は、札幌市の独自調査は社会だけですか。

○指導担当部長 それと、中学校の英語ということですか。

○西村委員 理科が加わることによって、学校の日程的なことはどうなのですか。

○指導担当部長 中に詳しい実施方法が書いてありますが、算数・数学、国語はA問題、B問題をそれぞれ別々にやっているのですけれども、理科についてはA問題、B問題を一緒にやるので、1時間、時間がふえる形がベースになっております。

○西村委員 午前中で終わるのですか。

○指導担当部長 質問調査も含めると午後も含めた実施になります。

○山中委員長 ほかにいかがですか。

○池田委員 先ほど西村委員が言われたように、ここ一、二年、いろいろな方たちと話をするたびに、この全国学力・学習状況調査についてのことをそれとなくいろいろな話を聞く中では、意外とどうして全部が参加しない抽出方式かという意見が随分多いような印象を私は受けています。

ですから、私としては、学力だけが全てではないので、見える学問か見えない学問という意味合いでいきますと、もっともっと人間的ないろいろな魅力みたいなものを引き出す意味では、学力だけを全国的に調査するのはどうかという気持ちがないわけではないです。一方では、そういう多くのお話を聞いたりするので、何年かに一遍、本当にやってみて実際にどうかを検証してみる場面が、もしかしたらあった方がいいのではないかという気がしております。

ただ、その中で、最初のページの②にあるように、各学校においてタイムリーでもあるというお話をいただいたのですけれども、逆に、そのところは実際にどんな形のものでどう指摘されているのだろうということを明確にしてあげると、こういうものでタイムリーに個々の生徒の学習状況を把握しているということをもうちよっと訴えていくことによっても、全員参加する必要はない

という方針がひとつあってもいいのではないかと思います。参加しない分だけ、各学校のタイムリーな学習状況等々によって判断しているということをもうちよっと明確にすると、全員参加型ということではなくていいのかなと思ったりもしているというのが自分の心境です。

ですから、場合によっては何年かに一遍やってみるのもいいし、もしかしたらタイムリーに個々の学校でやっているものをもっともっと表に出して、こういう形でやっているの必要なそんなにないのですというところに持っていく議論を少しした方がいいかなと感じております。

○山中委員長 各学校でやっているものをもっと表に出していくという意味は、例えば具体的に各学校でやっているテストの内容を公開していくということですか。

○池田委員 内容といいますか、これだけの学力があって、全国から見てこのレベルのものだとか、親の方たちが納得できるようなもの何かあるのではないかと思います。

○山中委員長 各学校において、うちの学校ではこういうテストをやって、全国から比較するとこんな感じですよというところをもっと保護者にわかるようにしてほしいという話ですか。

○池田委員 はい。

○山中委員長 その辺はどうでしょうか。

○北原委員 おっしゃることは、全国との比較というよりは、具体的に日常の、ここの②で言っている各学校において日常のテストなどの方法によって学習状況等の把握を行っています。それを具体的にどういうふうにして、それがどういうふうにかかされているのか、そのことをもっときちんとわかるように伝えていく、それは各学校がやるだけではなくて、教育委員会としてもこんなことをきちんとやっているのだから、この②の主張はこういうことですよとわかりやすく説明していくべきではないかというご指摘だと受けとめさせていただいたのです。

その努力はこれからしていく必要があるだろうと思います。

○山中委員長 恐らく、池田委員がおっしゃっておられるのは、自分の子ども、あるいは自分の学校は全国的な中のどういうあたりにいるのだろうかという必ずしも目に見えないその辺をもう少しわかるようにしてほしいという気持ちが保護者の中に結構あるというあたりでおっしゃられたと思うのです。教育長が言われるように、学校としてその辺はもっともっと保護者の方々なんかわかるようなご説明をどのようにやっていくのか、工夫していただきたいということだと思います。

簡単にこうすればという方策がぱっと出てくることでもないのでしょうか。

抽象的に言えば、教育長がおっしゃることはそうなのだろうと思うのです。

○北原委員 例えば、テストで台形の面積を求める問題を出したけれども、できませんでした。それを分析していったときに、面積はどういう考え方で求めていったらいいのかをしっかりと身につけさせていくことが本当は必要だと思います。それに対して、点数をただ上げるだけと考えると、台形の面積の求め方の公式を覚えれば簡単に求められるようになるのです。そのときに、台形の面積の求め方の公式を覚えさせるという指導の仕方に行くのか、そうではなくて三角形を二つでやってみたり、平行四辺形と三角形でやってみたり、いろいろな面積の求め方の基本的な考え方について、子どもたちがどういうところで間違えたのか、どういうふうに考えていったらいいのかを、例えば子どもたちの誤った答えの仕方をもとにしながら指導できる。それは、ふだんの日常的なテストの中でできると思います。しかも、それを学習して、テストして、実はこういうことだよと連続しながら、指導と評価を繰り返しながらスパイラルに学習を深めていくことができる、そんなやり方が本来の②の取り組みです。

ところが、全国の学力テスト、それはそれとして、札幌市の傾向をとらえるには適切なことでもあるので、そこに参加させていただいているのですけれども、それだけではなくて、前年度に学んだことについて今年の春にテストして数カ月後に結果が出る。それをどういうふうに生かしていくのかといたら、個々の子どもに対しては生かし方がなかなかうまくいかない部分があるのも事実です。そのときに、具体的に一人一人の子どもという観点で見ていったときには、日常的な今申し上げたようなやり方がはるかに有効でしょう。

そういう意味で、一人一人の子どもという観点から考えたときには、日常の、札幌市のというふうに考えたときには抽出で傾向を把握しながら、指導全体の改善を図るといふところだと思うのです。

いずれにしても、そういったことを含めて、トータルでどんなふうに考えていったらいいのか、そのことを子どもたちも含めて保護者、市民にどういうふうにきちんと理解していただけるか、それを皆さんにご理解いただくための手だてについて、もっと努力していかなければいけないと考えています。

○山中委員長 大変わかりやすいご説明でありました。ありがとうございます。

その辺は、この中だけではなくて、外に向けてもご説明をすることもお願いしたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○山中委員長 それでは、とりあえず、来年度の全国学力・学習状況調査への対応については、事務局から抽出調査には参加し希望には参加しない理由のご説明があったとおりということです。ただ、特に各学校における児童生徒の学

習力の把握、そして、より一層、委員会内部でも理解を深め、また、外部に対してもわかりやすい説明をさらに心がけて進めていくことで、議案としては提案どおり決定ということによろしゅうございますか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○山中委員長 では、議案第2号につきましては、提案どおり決定とさせていただきます。

◎議案第3号 第2次札幌市図書館ビジョンの策定について

○山中委員長 続いて、議案第3号につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

○中央図書館長 中央図書館長の長谷川でございます。

議案第3号は、第2次札幌市図書館ビジョンの策定についてでございます。教育委員会として最終的な決定をしていただきたくお諮りするものでございます。

これまでの経過をご説明いたしますと、7月15日の教育委員会会議において、ビジョン案の内容、またビジョン案について市民意見の募集を実施することにつきましてご報告をいたしました。

同じく、11月21日の教育委員会会議において、市民意見の募集を行った結果、57件のご意見がございまして、そのうち1件をビジョン案に反映すること、また、その市民意見の募集結果も含めましてビジョン案について市議会文教委員会へお諮りすることをご報告いたしました。

そして、12月12日に市議会文教委員会にビジョン案をお諮りしたところ、質疑はありましたが、反対の意見はありませんでした。

したがって、最終的なビジョン案は、お手元の資料の別添1、別添2でございますが、前回11月21日の教育委員会会議でご報告したものと同一内容でございます。つきましては、内容のご説明は省略させていただきます。

本日、ご決定いただければ、この後の公表のスケジュールでございますが、1月に入りまして、ホームページ、図書館施設、区役所等で資料を配付する、また報道機関の方に情報提供するといった取り組みを考えております。

説明は以上でございます。

ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○山中委員長 ありがとうございます。

これまでも議論をしてきた図書館ビジョンではございますが、さらにご質問あるいはご意見はございましたらお願いします。

○池田委員 平成23年1月の市アンケート結果の中で、量的拡大に対する満足度が高いということが、別添の1ページの平成23年1月の市民アンケート結果の中に書いてあるのです。

もう一つ、不満足だった点はなかったのかどうか。不満足があったとすれば、それはどういう形でこの1年間かけて、あるいは、どう盛り込まれたかを、もう一回、再確認したいと思ったのです。

○中央図書館長 総じて満足度が高いのですが、中には不満足という方ももちろんいらっしゃいました。各項目について不満という方もいらっしゃいました

けれども、その割合が低いというところでもございました。満足の方が多いのですけれども、不満の割合が割と多かったものとしては、例えば本を探しやすくするための館内表示とか、本の種類とか、数といったところで、不満の割合が少し高かったところがございます。

その点につきましては、ビジョンの中のA3判の見開き裏面の左側をごらんいただきたいのですが、第4章の施策の方向性と取り組み項目がございますけれども、基本方針の中で幅広い分野の資料を収集するというところで、本の収集、さらに数や種類などについて努力をしていくということです。それから、館内案内につきましては、基本方針2の上から5番目、施策の方向性にユニバーサル化の推進とございます。館内案内はもちろんのこと、本を検索するシステムについてわかりやすく見やすくといった工夫をしてみたいと考えております。

○山中委員長 池田委員、よろしいですか。もう少し質問はありますか。

○池田委員 この間、検索の方法がとても難しいと私は感じたのですけれども、具体的に少しおありでしょうか。

○中央図書館長 検索の関係は、まず、スピードが遅いということがありました。それから、画面が見づらいということもございますので、そういった部分を解消していきたいなと思います。

○山中委員長 解消の方策として具体的なこともかなり検討されていますか。

○中央図書館長 本の検索システムだけではなくて、実はいろいろな貸し出しのことも含めて、図書館全体の電算システムがあります。その電算システムの更新の時期に入ります。たくさんの本が借りられていますので、貸し出し自体のスピードも大分遅れてきていて、業務にも少し影響がありますので、この平成24年から平成26年にかけて、検索のシステムと電算システムとあわせて、スピードの面、使いやすさの面について改修していこうと考えております。

○山中委員長 ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○山中委員長 特になければ、原案どおり決定してよろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○山中委員長 それでは、議案第3号につきましては、原案どおり決定ということにしまして、今後、それに従って進めてください。

それでは次に、議案第4号ですが、これから公開しない議案となりますので、傍聴者の方は退席のご協力をお願いいたします。

以下 非公開